

「第5回最新バイオメカニクス研究法への招待」に対する感想

＜自分にとって有益だった点＞

・まず、JISSに入り研究設備を見せていただけるという、このような貴重な機会を頂けたことにとっても感謝しております。自分か被験者になることでこれから先、研究者の道を行んでいく上で研究者の視点だけでなくその被験者になるものの立場に立てたのは非常に大きな経験であったと思います。また、1回生のこの時期にこのような実験の数々を経験することでとてもモチベーションを上げることが出来、今まで以上にバイオメカニクスの学問で役立てるように勉学に励もうという気持ちにもなりました。最後になりますが、特に貴重だったことはJISSの研究者の方々と様々な話をする中で、自らもJISSの研究員の方々のように働くことのできるという希望を持てました。私自身の目標が目で見えるそれが今回の私の最もおおきな収穫でした。（1年男）

・直接質問でき、すぐに返答を頂けるという、近さが非常にうれしかったです。また、いろんな測定をして、自分の足りないところなどが見えてよかったです。（1年女）

・まだ1回生ということでこれからの進路を決めるにあたって、今回バイオメカニクス研究法を体験してさらに興味を持ち、将来の選択肢が増えました。また、先生方のお話を聞いたり質問できたりしたことで、日頃の疑問や悩みを解決できました。（諦めようとしていた進路についての話も聞け、勇気付けられました。）さらに、トップクラスのアスリートが利用する施設（食堂や陸上競技実験室）を利用できたことで、人間を相手とする職業の責任や面白みを改めて実感しました。（1年女）

・まず、1番は視野が広がったことです。自分はまだ1回生なので、大学の授業も基本的な内容が多く、実験に触れる機会はまだまだ少ないのですが、今回自分が被験者になりながら様々な器具を用いていろいろな角度から人の体やその動きについて知ることによって、よりスポーツを様々な視点から分析することに興味を持ちました。それから、個人的には人との出会い、繋がりが得られたのも非常に良かったと思います。院生の方、教授の方、平野さん、一緒に企画に参加した他の14人と本当にいろいろな話が出来ました。さまざまな視点からアドバイスもいただきました。こういった繋がりはこれから先もずっと大切にしていきたいと思います。（1年男）

・立命館大学スポーツ健康科学部はまだできたばかりで、先輩がいないため、今回、他大学の先輩方と一緒にさせてもらうことで、いろいろ教えてもらえました。またJISSという日本でまたは世界でトップクラスの選手やそれをサポートする人々が働く場所に自分の身をおいたことで、もっとスポーツ健康科学に興味をもった。（1年女）

・国立スポーツセンターを見学する機会、また他大学の方と話をする機会、プロの方の測定の仕方を生で見、聞く事が出来た点（1年男）

・第一線で活躍する選手と近い関係の方と話が出来たこと。機械の応用的活用方法についてお話を伺えたこと。実際の選手たちの生活の様子を知れたこと。

横のつながりが広がったことです。（3年男）

・ 研究員の方から、実験の目的や実験に至るまでの考えを聞くことが出来た上に、自身の測定結果をその場で知ることが出来ました。とても充実していました。また実験に関しての資料の配布があった測定もあり、自身の勉強につなげることが出来ました。（3年男）

・ バイオメカニクスのようなスポーツ科学の研究職に興味を持っていた自分にとって、今回の機会は、実際に様々な機器を用いた測定を体験することで、研究職というイメージをよりリアルに感じる事ができました。職員の方には、測定結果に対する質問、自分の興味がある研究に対する質問だけでなく、今後の進路についてもアドバイスしていただき、進路について不安であった点も解消することができました。日本のスポーツ研究のトップである JISS の施設で体験・宿泊できたことは率直に嬉しい体験でした。また、他の参加者と話すことで、今後の活動にいい刺激が得られたと感じています。（3年男）

・ 走運動を点と線で捉える事によって、骨盤のずれや自分の走りの特徴を捉えられた事が特にすばらしいと感じたことでした。そのデータだけでなく、実験を行っている方が親切に解説をしてくれたことによって、理解がぐっと深まりました。どの方にも言える事ですが、こちらの質問に対して答えられる限り答えてくれる、という誠意ある対応によって様々なことを学ぶことが出来ました。（3年男）

・ 学校での研究では触れることのない研究機材などに触れることができ良かったです。日本のトップ選手が練習されている環境に入れたことは貴重な体験になりました。そして共に参加した人の研究に対する意識がとても高かったので刺激になりました。あと食事がとてもおいしかったです。（4年男）

・ 出会いがあったことです。同じ研究分野の人との出会いがあり、今後も研究に関するアドバイス等を頂けることになりました。このような新しい人との繋がりが増えたことが、私にとって一番有益だった点です。（M1男）

・ 普段の研究で使うことのない設備や研究法を知ることができ、今後の研究へ活かすことができる。他大学の学生がどのような環境、テーマで研究をしているかを知ることができ、情報を共有できた。普段は入ることのできない JISS の施設や暮らしを知れたのは非常に貴重な体験だった。（M1男）

・ 最新の機器に自ら体験することが出来たことです。こういった機会ではしか出来ないことだと思いますので今後の研究に役立つと思います。また研究員の方と直接とはなすこともでき貴重な意見をいただくことが出来ました。他大学の学生とも意見交換することが出来、視野も広がったのではないかと思います。（M1男）

・ JISS という普段入らない（入れない？）施設に入れたこと。様々な機器を見ることができたこと。年齢が近い方たち（参加者間）とお話しできて刺激になったこと。（M1男）

<改善を望む点>

・ 設備をもう少し見たかった。（今回、実質2つの部屋でしか実験の経験が出来なかったように感じた。）研究内容の詳細な資料のレジュメなどあれば見たかった。（1年男）

・新たに興味を持つものができたかもしれないので、簡単にでも実験室など施設案内などがあると、さらに良かったと思います。(1年女)

・もっと勉強する時間がほしかった(1年男)

・予算の関係などもありますでしょうし、参加させていただいているにも関わらず凄くわがままでと思いますが、もう少しJISSに居たかったです。1日だけではもったいないような気がします。あとは被験者だったからという部分もあったかと思いますが、基本的に聞く側、される側、という受け身な体制だったので、少人数グループディスカッションをしたり、考えて話し合ったりする時間があってもよかったですと思います。(データを見て悪い点を考えたり、意識して再計測したり…) (1年男)

・時間の都合というのもあるのだろうけれど、代表者だけ全て測って、あとは少しだけ計測というように、全員が100%で測ることができなかったことがあったのは残念だった。(1年女)

・練習場を堂々と見学できたらより良かったと思います。(3年男)

・ひとつひとつの実験にかける時間がもう少しあってもよいのではないかと感じました。また測定項目によって時間配分を変えてもよいのではないかと感じました。(3年男)

・可能であれば、より多くの測定の体験をしたいと思いました。自由時間が長く感じたので、その時間を測定の体験や見学に利用できたらと感じました。(3年男)

・もう1日体験期間がほしかったです。(4年男)

・実施のテンポは良かったが、時間が短かったので、座学の時間ももっとあると良かった。同じ班以外の学生と話せる時間が極端に少なかった。(M1男)

・トップアスリートを対象にした測定または実験風景を実際に見ることが出来れば良いと思いました。(M1男)

・勝手な意見ですが、機器自体は見たことや触ったことのあるものが多かったように思うので、もう少し細かく仕組みなどを解説していただきたかったのと、1つ1つの測定場所で参加者間や研究者と話し合う時間を設けてほしいと思いました。(M1男)

・1時間という限られた時間で、各セッションを回ったのですが、その際に測定する種目によっても異なりますが、強度の高い種目もいくつかあり、その中で「では少しウォーミングアップをしてください」という場面がありました。1時間をより遊戯に使うためにも、1日の測定が始まる前に、予め15分~30分程度の時間を設け、各自ウォーミングアップをするような時間があれば、測定に関して1時間をフルに使えるようになり、これはJISSのスタッフ側と私たち学生側にとってもいいことになるのではないかと感じました。(怪我の可能性等を考えても) (M1男)